

シリーズ「子どもの野生復帰大作戦」⑤

子どもとコウノトリの野生復帰大作戦(下)

地域ぐるみで自然体験活動を推進する「子どもの野生復帰大作戦」は、現在「自然体験学校」や「野外キャンプ」などの取組みを行っています。

このコーナーでは、自然体験活動などを多方面で実践されている方々からその必要性や意義を伺い、連載で紹介しています。

県立コウノトリの郷公園

田園生態研究部 部長

池田 啓さん

(前回からの続き)

トレーニングされたコウノトリたちが、うまく飛びまわることができ、餌が採れ、そして仲間と仲良くしたり、けんかできたとしても、野生復帰ができるわけではありません。野生復帰する場所が必要です。コウノトリの場合は、豊岡の田んぼや川などの自然環境であったり、コウノトリを「温かく迎えて、見守ってくれる」人々が住む地域社会ということになるでしょう。野生化した子どもたちの場

合は？

子どもたちだつて同じです。せつかく憶えた野遊び、川遊びの楽しさを安心して満喫できる原っぱや川、木登りしたり山の恵みを採ることができる里山がなくてはなりません。そう、冒険、探検できる「場」が必要なのです。

もう一つの大事なことは、そんな野生化した子どもたちを「温かく迎えて、見守ってくれる」大人たちが居ることです。子どもたちを巻き込んだ不幸な事件が起こるたびに、心が痛みます。だからといって、子どもたちをいつとも目の届くところに置いておくようなわけにはいきません。

子どものころ、野遊びや山遊びが何であんなに楽しかったんだらうと考えます。たぶん、□うるさい大人が居なかったからに違いありません。また、マニュアルや規則がなかったことも。そのかわり、ちよつと訳知りのガキ大将がいて、道具の使い方やルールを教えてくださいました。

とすれば、野に放たれた子どもたちが本当に定着するには、大人が、彼らが安心して暗くなるまで遊び回れる地域社会を責任もって創ること、そして野生復帰した彼らを信じて遠くから温かく見守ることなのではないでしょうか。



▶コウノトリの郷公園で川遊びする子どもたち(6月17日、自然体験学校)

学校のこれからについて考える 学校整備審議会を設置

教育委員会では、学校規模や施設整備のあり方についての基本的な方針を審議するため、学識経験者や関係団体役員など20人で構成する学校整備審議会を6月に設置し、現在、検討を進めています。
《問合せ》教育総務課



会議の経過

第1回目は、学校の現状説明のあと、学校規模についての質疑応答を行いました。

第2回目は、大規模校・小規模校の実態を把握するため、各2校ずつを授業視察しました。

今後さらに検討を進め、年内を目途に一定の方針を示すこととしています。

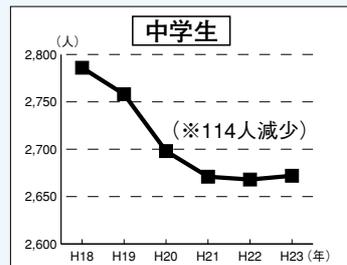
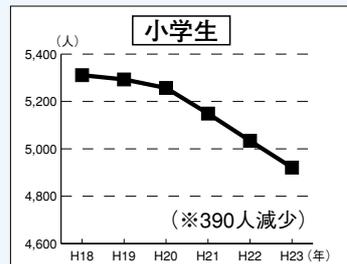
学校の現状

全国と同様、本市においても少子化が進み、現在と比べると、右グラフのとおり平成23年には小学生で390人、中学生で114人が減少します。

また、耐震化を要する小・中学校施設は20校56棟あります。

※会議資料は市ホームページにも掲載しています。

児童・生徒数の推移(人) (平成18年~23年) (グラフ)



学校敷地内禁煙に協力をお願いします!

学校敷地内禁煙を推進しています。学校開放等で学校施設を利用される方の理解と協力をお願いします。